

2025年度第3四半期 決算説明会

2026年2月4日

広栄化学株式会社

代表取締役社長 佐々木 康彰

目次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1 .会社概要	2
◆ 2 .2025年度第3四半期決算概要	7
◆ 3 .2025年度業績見通し	13

目次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1.会社概要	2
2.2025年度第3四半期決算概要	7
3.2025年度業績見通し	13

1. 会社概要

(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 417名※ (2025年12月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

子会社（KGS株式会社）：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

※嘱託含む
(派遣社員は含めない)



千葉事業所

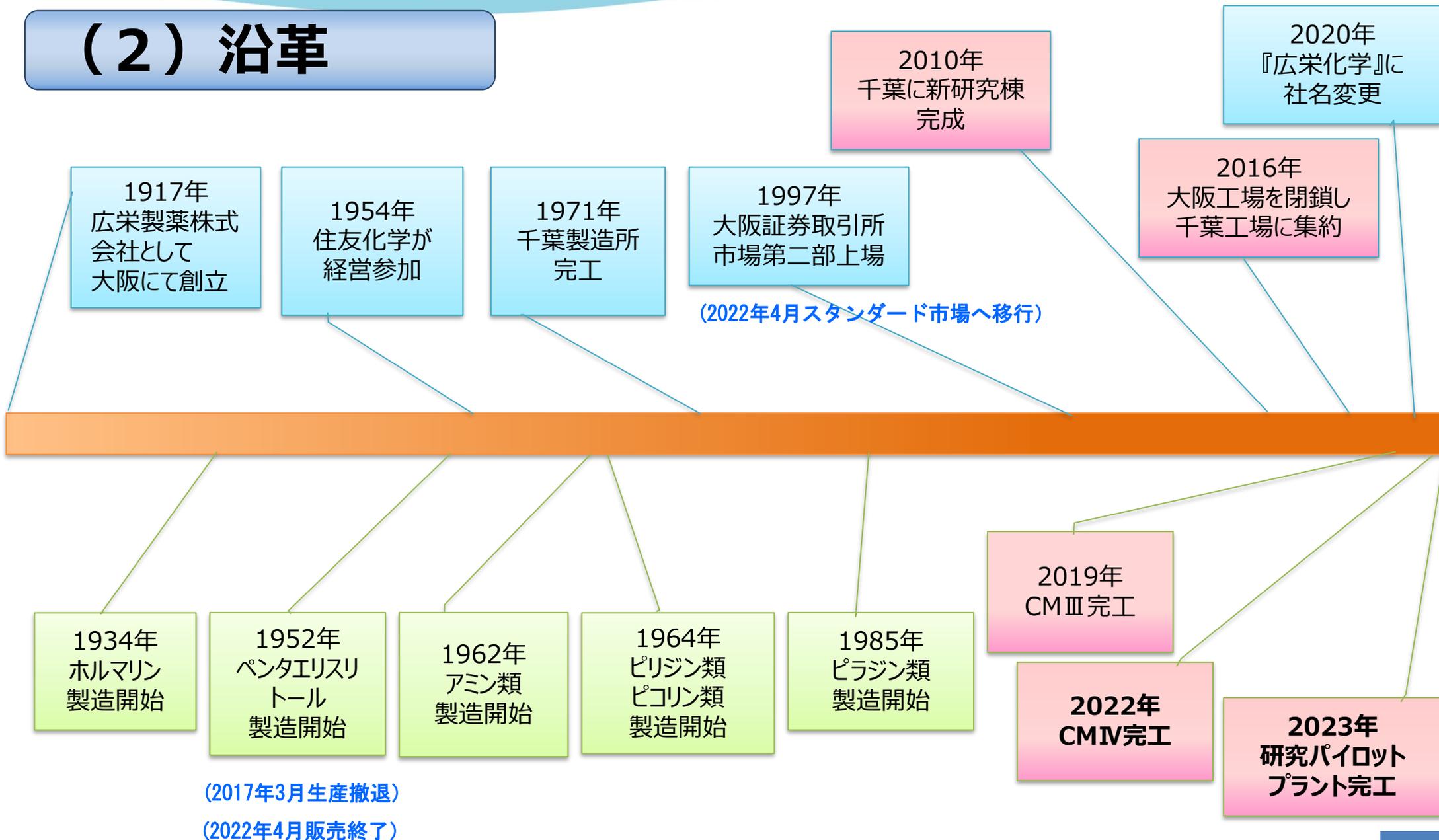


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

100種類以上の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ② カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせ
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③ 機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMI、CMIⅡ、CMIⅢ）で生産
2022年10月に、マルチプラント4系列目（CMIⅣ）が稼働。

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	2
◆ 2 .2025年度第3四半期決算概要	7
3 .2025年度業績見通し	13

2. 2025年度第3四半期決算概要

(1) 第3四半期決算ハイライト

(単位：百万円)

	2025年度 3Q実績	2024年度 3Q実績	増減 (前年同期比)
売上高	10,820	14,457	△3,636
営業利益 又は営業損失	△12	903(※)	△916
経常利益 又は経常損失	△110	758(※)	△869
四半期純利益 又は四半期純損失	△80	498(※)	△579
1株当たり四半期利益	△16.55円	101.89円	△118.44

※ 当期から四半期繰延処理を廃止したことにより、以下の通り前期値の遡及修正を行っております。

営業利益、経常利益：201百万円増加，四半期純利益：136百万円増加

2. 2025年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 売上高 … 製品グループ別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2025年度 3Q実績	2024年度 3Q実績	増減	増減の主な内訳
医農薬化学品	4,127	7,010	△2,883	腎疾患薬等 (↓) 農薬関連 (↓) 抗アレルギー薬 (↑)
機能性化学品	4,526	5,394	△867	触媒関連 (↓) 光学材料関連 (↓)
その他	2,166	2,052	114	接着剤原料 (↑)
合計	10,820	14,457	△3,636	(売価差△22、数量差△3,614)

2. 2025年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



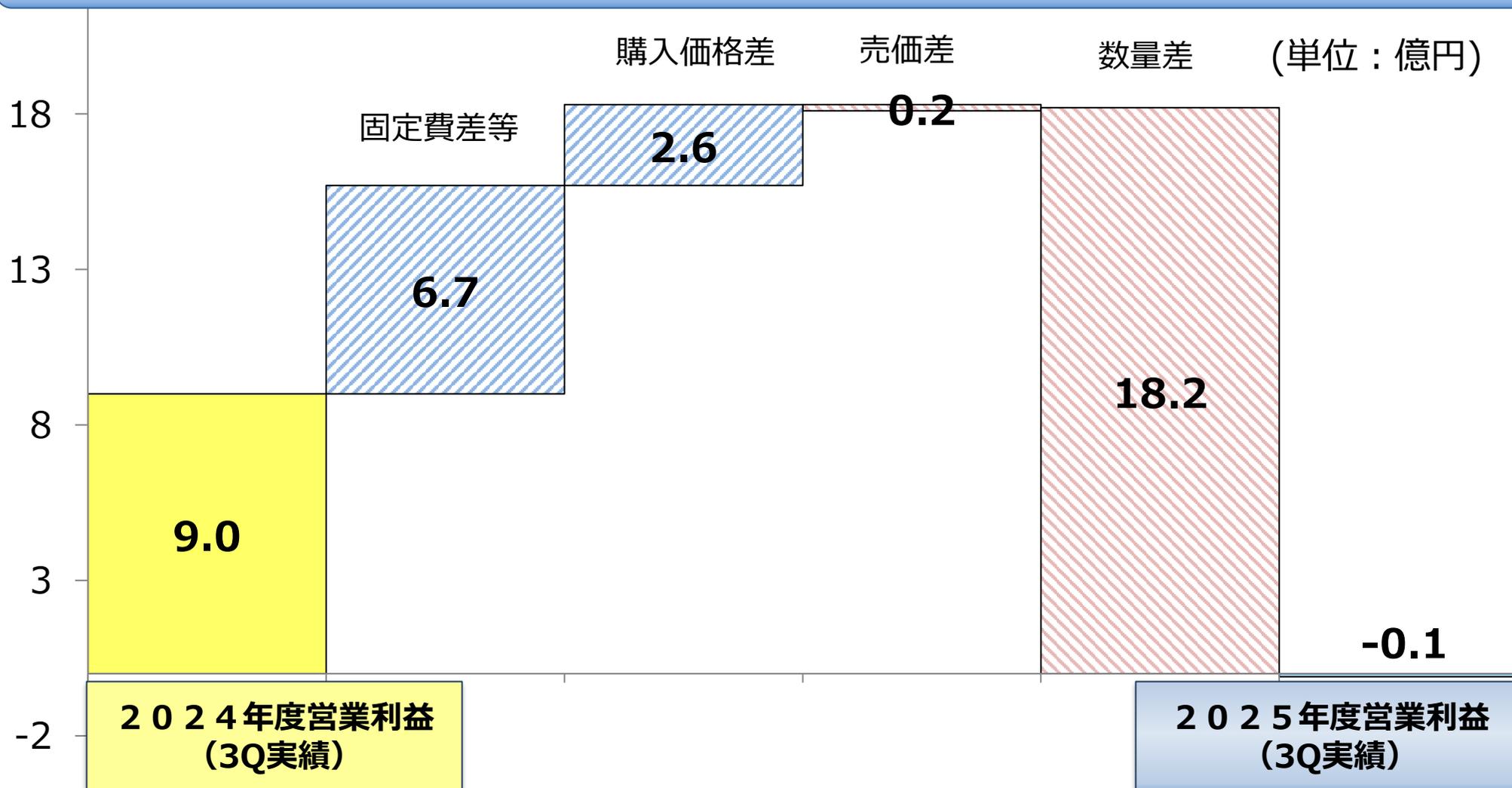
(3) 売上高 … 輸出地域別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2025年度 3Q実績	2024年度 3Q実績	増減	増減の主な内訳
アジア	4,543	3,340	1,203	医薬農薬関連 (↑)
北米	232	2,724	△2,492	農薬関連 (↓)
欧州	702	2,273	△1,571	腎疾患薬等 (↓)
その他	0	0	0	
輸出合計	5,479	8,339	△2,860	(円高によるマイクス影響△97)
為替レート (円/米ドル)	(148.27)	(152.94)	(△4.67)	
輸出売上比率	50.6%	57.7%	△7.1%	

2. 2025年度第3四半期決算概要

(4) 営業利益分析【前年同期比】



2. 2025年度第3四半期決算概要

(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2025年3月末)	(2025年12月末)	増減	貸方科目	(2025年3月末)	(2025年12月末)	増減
[資産の部]	352.2	363.8	11.6	[負債の部]	136.0	152.4	16.4
流動資産	130.4	158.9	28.5	流動負債	72.6	94.2	21.6
固定資産	221.8	204.9	△16.9	固定負債	63.4	58.2	△5.2
				[純資産の部]	216.2	211.4	△4.8
合計	352.2	363.8	11.6	合計	352.2	363.8	11.6
				自己資本比率	61.4%	58.1%	△3.3%

● 主な増減要因 (資産)

売掛金	△11.2億円
棚卸資産	+34.8億円
有形固定資産	△17.3億円

● 主な増減要因 (負債)

買掛金	+17.3億円
未払金	△5.6億円
借入金	+5.8億円

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	2
2 .2025年度第3四半期決算概要	7
◆ 3 .2025年度業績見通し	13

3. 2025年度業績見通し

(1) 2025年度業績進捗状況

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
第1四半期実績	3,191	△406	△459	△300
第2四半期実績	4,018	99	77	29
第3四半期実績	3,611	295	272	191
第3四半期累計	10,820	△12	△110	△80
年間公表 (10/29)	18,000	200	100	30

3. 2025年度業績見通し

(2) 製品グループ別売上高進捗状況

(単位：億円)

	2025年度 3Q実績	2025年度 年間公表	進捗率 (%)	主な製品の進捗状況
医農薬化学品	4,127	5,880	70.2%	医薬関連 (想定内) 農薬原料 (想定内)
機能性化学品	4,526	8,920	50.7%	電材関連 (想定内-4Q増加見込) 触媒関連 (想定内-4Q増加見込) 光学材料関連 (4Q販売予定)
その他	2,166	3,200	67.7%	カーボンニュートラル関連 (想定内) 樹脂関連 (想定内)
合計	10,820	18,000	60.1%	

3. 2025年度業績見通し

(3) 2025年度業績予想【概要】

<2025年10月29日公表値から修正なし>

(単位：百万円)

	2025年度 年間予想	2025年度 3Q実績	2024年度 実績
売上高	18,000	10,820	20,018
営業利益	200	△12	566
経常利益	100	△110	356
当期純利益	30	△80	288
1株当たり配当金	80円	-	100円

3. 2025年度業績見通し

(4) 目標利益確保に向けた取り組み

● 取り組み内容

取り組み項目	進捗内容
新製品開発 (受注タイミングの関係で余力があるプラントについて、新製品の受注獲得による稼働率の向上を目指す)	<ul style="list-style-type: none">・新規機能性製品の受注・販売・輸入原料の自製化・顧客川下工程を当社で取込み一気通貫生産・過去受託品を洗い出し再受託・生産に成功
売価是正 (原料価格や為替動向等、市況の変化を注意深く確認し、製品価格に適切に反映する)	<ul style="list-style-type: none">・既存製品（アミン・気相）等の採算是正
各種合理化・厳選投資 (生産予定品目の処方見直しによる生産性向上、投資の厳選および補修費の実施内容見直し等のコスト合理化)	<ul style="list-style-type: none">・一部気相製品の販売好調に伴い、生産性向上に向け設備投資実施・原単位等コスト合理化、原料低廉購買、各種費用削減の徹底

収益性改善に向け全社総力戦で取り組み推進中

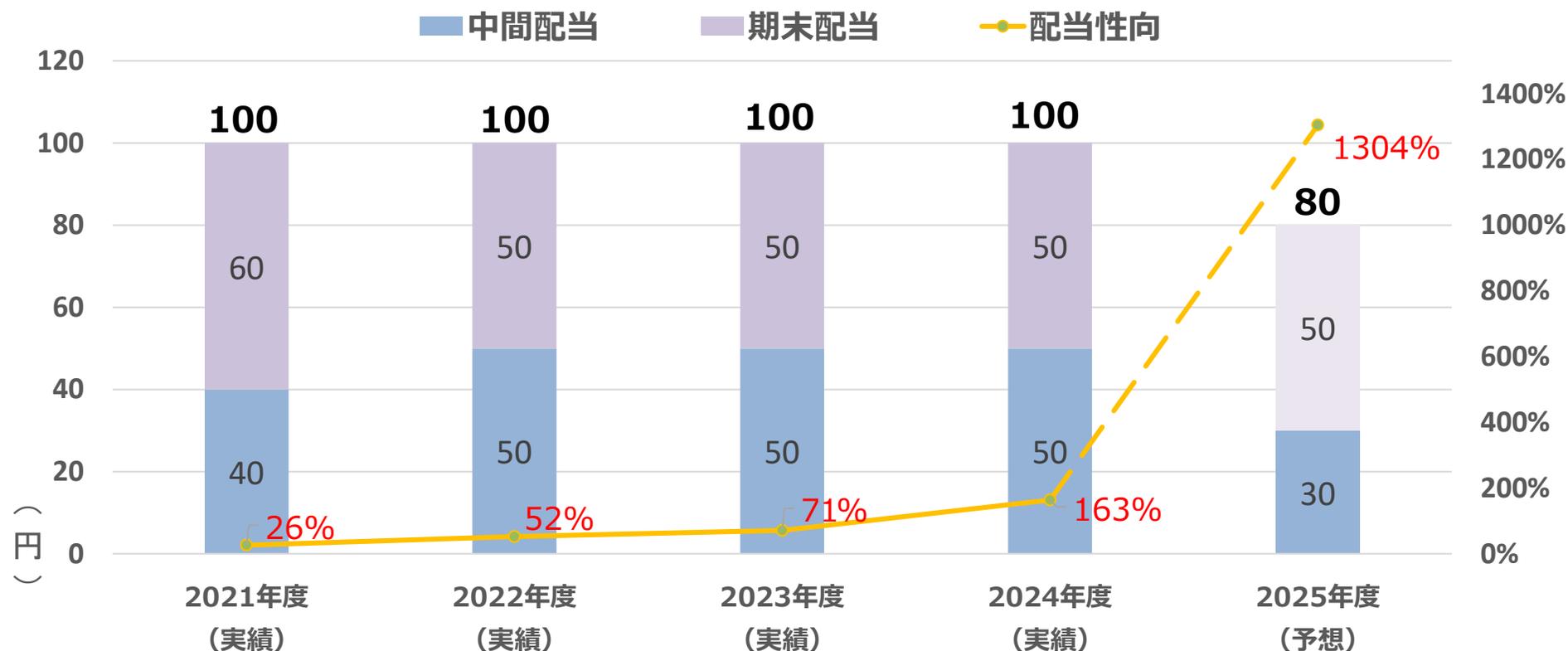
3. 2025年度業績見通し

(5) 配当予想

配当政策

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。

配当性向については、原則50%を目途に株主還元を実施する方針とする。



ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。

100年の技術と信頼を明日へ



Q & A